

大分県（大分県全域）

R4補正
R5当初

73

背景・課題

いちごは大分県の重要推進品目として県内全域で40ha栽培されている。これまで、天敵昆虫のハダニ防除への導入やミツバチの受粉作業への活用など生産力向上と、環境負荷軽減を図るグリーンな栽培品目としての地位を確立してきた。

しかし、アザミウマやアブラムシ等の難防除病害虫の防除は、農薬に依存せざるを得ない状況である。産地では抵抗性害虫の出現や天敵昆虫・ミツバチの定着不良などの問題も発生しており、化学農薬のみに依存しない防除体系の確立が課題となっている。

成果目標

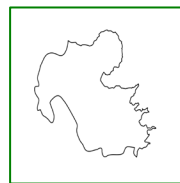
環境にやさしい栽培技術として、

○アブラバチによるアブラムシ防除

○光反射資材によるアザミウマ類防除

○ミツバチへの影響の少ない農薬防除体系実証

に取り組むとともに、これらの技術導入による化学農薬防除回数の削減による省力化の検証を行い、IPM技術を確認する。



大分県全域

構 成 員

大分県、大分県振興局、大分県農林水産研究指導センター農業研究部、大分県農協、いちご生産者、アリストライフサイエンス

品 目

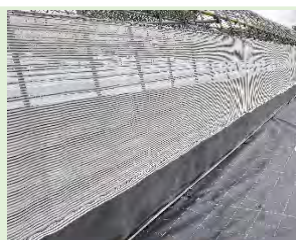
いちご（施設）

主な取組内容

- 天敵や反射ネットの利用によるアザミウマ類防除の体系マニュアル化
- 天敵を利用したアブラムシ防除体系の現地へのマニュアル化
- 化学農薬の使用回数の削減



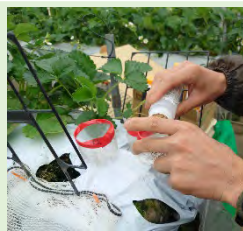
カブリダニを放飼し、アザミウマ類の防除を実証（ククメリスカブリダニ）



光反射資材によるアザミウマ類の侵入防除の実証（商品名：スリムホワイト）



アブラバチバンカーと天敵の放飼によるアブラムシ防除



現地検討会の開催
実績検討会、
研修会を開催し、
天敵等資材の有効な活用方法を模索

普及に向けた取組

環境に優しい持続可能ないちごの安定生産実現のため、県内での普及実績が極めて少ない化学農薬以外の防除資材の中で、特にアザミウマやアブラムシへの高い防除効果が期待できる光反射素材や天敵昆虫の導入を目的にIPM技術モデル実証ほを主要産地に設置し、現地検討会を開催するなど県内全域での推進を図る。

問い合わせ先

大分県農林水産部地域農業振興課安全農業班
TEL:097-506-3661